



奈良市朱雀1-3-27  
www.kosijnl.co.jp  
(有)古紙ジャーナル社  
発行人 本願 貴満  
TEL (0742)72-1798  
FAX (0742)90-1461  
E-mail info@kosijnl.co.jp  
購読料 年間45,360円(税込)

古紙・PET  
国際資源循環に貢献する

株式会社  
西東京通商

東京都新宿区西新宿6-5-1  
新宿アイランドタワー6階  
TEL:03-6302-3955  
FAX:03-6302-3956

### 廃プラ輸出

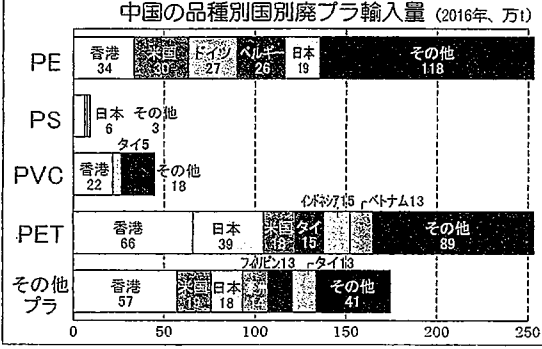
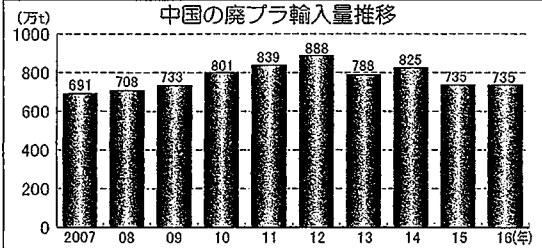
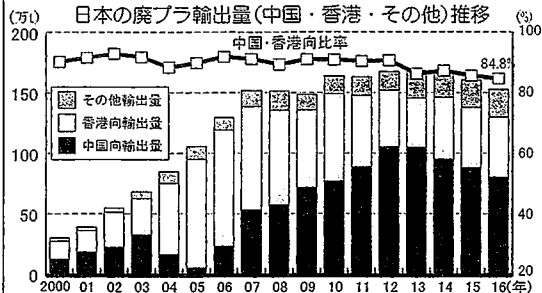
## 来年から中国はペレット品・工業系以外は輸入禁止に

八月十六日、中国の環境保護省や税関総局等は連名で、輸入資源ごみの管理リストを公表した。公表によると、中国の環境関連法を改正し、**廃プラスチック(八品目)、未選別古紙(一品目)、繊維系廃棄物(十二品目)、バナジウムスラッグ(四品目)**の四種二十四品目を輸入禁止にすることになる。これらは二〇一七年十月三十一日の施行が明記されている。この公告により、中国は来年以降、**ペレット品と工業系廃プラスチック**を除くすべての生活系廃プラスチックの輸入を禁止することになる。中国の廃プラ関連の現状を探索と共に、プラスチックリサイクルのトータルソリューション企業である株式会社パナテック(総務員大津市瀬田四丁目五番八号、異本政明代表取締役)に様々なお話を伺ったので紹介したい。

ある。国内の廃プラ消費量は千八百七十八万トン。中国の国内で回収されるもののほとんどがペレットだ。一方、二〇一六年の中国の廃プラの輸入量は七百三十五万トン。品別ではPETが二百五十三万トン、PEもほぼ同様の二百五十三万トン。次いでその他プラが百七十四万トン。PVCが四十五万トン、PSが九万トン、EPEとEPPの二品種で計五百六万トン。全体の七割ほどを占めている。

中国・香港向けが八五%  
昨年の日本の廃プラの輸出量は年間百五十三万トンで、この三年は減少が続いている。百五十三万トンのうち中国向けが八十七万トン(五七%)、香港向けが四十九万トン(三二%)を占め、

向(香港含む)以外の輸出はわずか二十六万トン(一五%)に過ぎず、他の販路の開拓が迫られる。中国の廃プラに関する状況  
現在、中国では年間七千七百万トンの樹脂生産量が



環境にやさしいリサイクルトナーのご用命は

**株式会社 西川**

大阪市東淀川区大隅1丁目5番地23号  
TEL:06-6328-4800  
FAX:06-6327-1104

NISHIKAWA.co.,Ltd.

ある商社が路線変更が求められる。本紙が六月に取材した江蘇省の廃プラ輸入専門商社は、日本にペレット化工場を建設することを示唆していた。

廃プラの国内消費量と輸入量の割合は七対三  
中国における廃プラの国内消費量が千八百七十八万トン、輸入量が七百三十五万トンで、国内と輸入の消費比率は約七対三。国内と輸入を合わせた廃プラの消費量は、二千六百十三万トンとなる。

この数値から分かるように、輸入廃プラの比率は、国内消費量の三分の一に満たない。また全体の樹脂生産量からみた輸入廃プラの消費割合は、九・五%に留まる。中国の再生樹脂を使用するメーカーは、これまで競争力強化のために、安価な廃プラを使用していたが、近年は原油価格が大幅に下落したことや、環境規制が年々厳しくなっている

二〇一五年末、中国の山東省済州市にある龍福社を訪問した。この二十四万坪の広大な工場では、世界各国から輸入した年間約二十万トンの廃PETボトルを原料として、付加価値の高い長繊維の製品を生産している。具体的には、毛布・絨毯・カーテン・服・紙・テント等。二〇一四年には、中国で十社ほしか選ばれない「中国の代表的な製造企業」に選出された。この時の視察では、二つの大きな驚きがあった。一つは龍福社の技術力。過去に廃プラを原料とする中国の工場を視察したが、どこも入海戦術による差別化、「安かろう悪かろう」の製品、百円ショップ等で販売している製品の多くは、このような工場で作られている。しかし龍福社の技術力を製品は「このままの価値観を壊さず」といった。

この一丁の驚きはPM2.5。山東省の駅を降りた時、霧がかなり出ているなと感じたが、それは全てPM2.5による大気汚染物質だった。わずか三日間の滞在だったが、二日目から体調が悪化した。市販のマスクでもPM2.5を防げなかった。

中国の光と影。未来に繋がる革新的な技術の光と、深刻な環境汚染による影。中国は現在、環境汚染と光と影を消して行く。



二〇一五年末、中国の山東省済州市にある龍福社を訪問した。この二十四万坪の広大な工場では、世界各国から輸入した年間約二十万トンの廃PETボトルを原料として、付加価値の高い長繊維の製品を生産している。具体的には、毛布・絨毯・カーテン・服・紙・テント等。二〇一四年には、中国で十社ほしか選ばれない「中国の代表的な製造企業」に選出された。この時の視察では、二つの大きな驚きがあった。一つは龍福社の技術力。過去に廃プラを原料とする中国の工場を視察したが、どこも入海戦術による差別化、「安かろう悪かろう」の製品、百円ショップ等で販売している製品の多くは、このような工場で作られている。しかし龍福社の技術力を製品は「このままの価値観を壊さず」といった。

週刊

# 循環経済新聞

## The Recycling Economy Times

### 輸入停止通告で波紋

### 調整期間突入、各社対応

### 中国向けプラスチックなど

中国環境保護部が7月18日に世界貿易機関(WTO)に  
対して、2017年末までに生活系のプラスチックスクラ  
ップなどの固形廃棄物(再生資源)の輸入を停止する緊急  
措置をとることを通告してから1カ月半が経過し、9月か  
ら12月まで実質的に輸入固形廃棄物目録(輸入再生資源リ  
スト)を調整する期間に入った。日本や中国の関係業者は  
日本国内や東南アジアのルートなどへの転換、再生・ペレ  
ット化・再生商品化、リスク回避のための当面の受入停止、  
休業・事業撤退などさまざまな対応がなされている。

7月に輸入禁止の調  
整対象リストにあげた  
のは「生活系などのプ  
ラスチックスクラップ  
」各種のスラッグ・ドロ  
ス「未分別の古紙」動  
物毛や綿、人工繊維(製  
品)などの繊維(くず)

の4カテゴリー24種類  
の固形廃棄物(再生資  
源)。通告では、汚物や  
有害廃棄物の混入によ  
る環境汚染を理由にあ  
げたが、有力関係筋は、  
「例えばプラスチック  
の汎用品については中

国で作れるようになっ  
て、格安プラとして世  
界中に出回るようにも  
なり、輸入スクラップ  
のメリットが薄れた。  
さらに、中国で最大の  
環境問題とされる大気  
汚染の原因の一つとし

て廃棄物の不適正な焼  
却もあげられており、  
輸入固形廃棄物対策の  
抜本的強化とともに、  
中国国内の廃棄物につ  
いて本格的な回収・リ  
サイクルの仕組みをつ  
くろうとしているのだ  
ろう」と言う。

輸入サイドの対応の  
急激な変化に憤り、リ  
サイクルや廃棄物処理  
の事業に混乱が生じて  
いるのも事実だが、「2  
000年代以降の十数  
年が過熱状態だっただ  
けのこと。13年の輸入  
スクラップ規制『ナシ  
ヨナルソード』以降

は、いつシュリンクし  
てもおかしくなかつ  
た。ものによっては排  
出事業者に事情を説明  
して、産業廃棄物処理  
として委託契約するだ  
けのこと、「適切な分  
別を行わず、不適物が  
あっても輸出できると  
考えていたこと自体が  
異常」、「中国以外の業  
者からのオフアームもあ  
るが、じつくりと信頼  
関係をつくらなければ  
リスクは大きい。中国  
も全面停止にするかど  
うかは不透明であり、  
慎重な対応が必要」な  
ど関係者からは冷静な  
対処が重要と指摘する

意見は少なくない。  
今後の日程について  
有力筋は、「12月末ま  
での調整を経て、具体  
的な措置が決まる。さ  
らに詳細なことは来年  
1月の各社への輸入ラ  
イセンス更新で明らか  
になるだろう」と述べ  
ている。